

II-472 家庭ごみの処理に関する住民意識調査

富山県立大学短期大学部 正員 天野智順

1. はじめに

近年、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の改正、あるいは「再生資源の利用の促進に関する法律」の施行により、行政においては一般廃棄物の減量化、省資源化のための分別収集やリサイクルの施策、事業等が各地域で行われ、資源ごみの収集や分別方法の変更、ごみ収集の有料化、減量化のための補助制度等が実施されている。また、それらの実施に伴う課題なども少しずつ出てきている状況にあると考えられる。本研究では、減量化、再資源化などを含めた家庭ごみの処理に関する意識および実際の行動についての住民アンケート調査を行い、その実態について明らかにした。調査は特徴のある地区を選定してアンケート票により行い、意識あるいは行動の特性、行政による施策の有効性、地区特性による相違等について検討したのでその結果について報告する。

2. 研究方法

調査は'91年度から'93年度まで各地区100世帯程度を対象に、各年度4地区でアンケートによる調査を実施した。それぞれの地区の特性として表1に示す新興住宅地、旧市街地、新旧混在住宅地、農村集落等の地区でさらにごみ有料化の実施の有無等で地区を選定した。調査はアンケート票を調査員が直接配布し、郵送による回収を行った。有効回収率は年度によって異なるが55～70%程度である。アンケートの質問内容は①ごみの収集方法・頻度について②ごみ有料化について③ごみ減量化の配慮と実際の行動について④リサイクルに関する配慮について⑤ごみに関する情報および行政に対する協力について等である。

3. 結果及び考察

ごみの収集方法・頻度については、分別が一般的な地区では現状の分別あるいはより細かい分別と答えた人の比率が高いが、ごみ有料化実施の地区では面倒だが現状の分別収集あるいは簡単な分別と答えた比率が高く、細かな分別収集化による負担が何える（表2）。また、行政の分別方法に従っているかでは90%以上の人が従って出していると答えているが都市部の地区ほど従わないと答えた比率が高かった。可燃ごみの回収頻度では週2回程度が適当と答えた人が多かった。

ごみ有料化については、ごみ処理料金の支払い意志で調査年度が古いほど安くても払いたくないと答えた人の比率が高かったが、年を追うごとに払うと答えた人の比率が増加しており、有料化の地区では高くても払うべきだと答えた人の比率が20%程度あり、意識の変化が見られた（表3）。また、1カ月当たりの料金は500円以下がいずれの地区でも60～70%と高く、多くても1000円程度までと答えた人がほとんどである。

ごみ減量化の配慮については、いつも気をつけていると答えた比率が年々増加しており、半数程度の人がいまも配慮していると答えている。また、有料化の

表1 調査地区特性			
調査年度	調査地区	地区特性	有料
1991年度	1	新旧混在住宅地	
	2	旧市街地	
	3	新旧混在住宅地	
	4	新興住宅地	
1992年度	1	新旧混在住宅地	
	2	新興住宅地	
	3	〃	○
	4	農村集落	○
1993年度	1	農村集落(含新旧住宅)	
	2	新興住宅地	
	3	旧市街地(含農村集落)	○
	4	旧市街地(含新旧住宅)	○

表2 現在、市町村ではゴミの分別収集が実施されていますが、あなたはそれについてどのようにお考えですか。（％）

	より細かい分別収集	効率よい現状の分別収集	面倒だが現状の分別収集	もっと簡単な分別	考えたことがない
地区'91-4	28.9	50.8	19.4	1.5	1.5
'92-1	24.1	50.0	17.2	3.5	5.2
'92-2	41.9	41.9	16.1	0.0	0.0
'92-3	4.9	17.1	53.7	19.5	4.9
'93-3	6.6	35.8	45.8	8.6	1.2
'93-4	4.9	53.1	39.5	2.5	0.0

表3 もしゴミ処理のための料金を徴収することになった場合、お宅ではどうお考えですか。（％）

	高くても払うべきだ	安くても払うべき	払いたくない	その他
地区'91-1	0.0	40.7	50.0	9.3
'91-2	9.8	29.5	55.7	4.9
'92-1	7.1	48.2	37.5	7.1
'92-3	14.3	50.0	16.7	19.1
'92-4	26.3	38.6	24.6	10.5

地区でその比率が高くなっている（表4）。どのようなことに配慮しているかでは、生ごみを堆肥にするが農村部の地区で高く、その他の地区でも増加しており、コンポスト容器の購入補助制度の効果が考えられる。また、可燃ごみを家庭で焼却する比率が農村部及び有料化の地区で高く、これも年々増加の傾向が見られる。また、リサイクルできるものは行くと答えた比率も同様に増加している（表5）。

リサイクル、省資源化の配慮については、新聞、雑誌はほとんどの人が廃品回収あるいはちり紙交換に出すと答えており、可燃物ごみに出すはなかった。牛乳パックは可燃ごみに出すが年々減少してきて、スーパーなどで回収あるいは家で焼却と答えた比率が高くなっており、有料化の地区では特にごみで出す比率が低かった（表6）。トレイについては回収、ごみに出すが半々でとなっているが地区により差が見られた。買い物での配慮では買い物かごやスーパーの袋を持参するが10%程度、使い捨て容器のものは買わないが10~20%で特に気を付けていないがかなり高く、現状の商品や販売の形態では配慮しにくい状況にあると考えられる（表7）。また、地域の廃品回収に対する協力ではほとんどの人が協力していると答えている。不用品の処理では不用品交換会あるいはリサイクル・ショップに出すと答えた人が10%に満たない程度でほとんどの人は粗大ごみに出すと答えていた。

ごみの減量化、資源化等の情報については、テレビ・ラジオによる情報の比率がかなり高い。行政等の広報からの情報が増加の傾向にあり、有料化の地区では70~80%の人が聞いたことがあると答えている（表8）。また、ごみの減量化、再資源化に対する協力では協力すると答えた人の比率が年々高くなってきており、できる範囲で協力するを含めてほとんどの人が協力すると答えている。

現在の生活様式については環境保全のために多少の便利さは我慢すべきであると答えた比率が70%程度あり大半の人が多少は我慢すべきと考えているが、有料化の地区では現状を維持する程度でよい比率が少し増えて、現状レベルでの対応で十分ではないかという考えが見られた（表9）。

4. おわりに

ごみ処理に関する意識や行動について有料化の地区あるいは農村集落地区等の地区による特性や経年的な意識の変化が見られた。また、有料化の地区ではごみの減量化、再資源化の意識や関心の変化が見られ、行政側の情報や施策の働きかけによる効果があると考えられる。今後、その他の要因や実際のごみの減量効果なども、検討したい。

表4 お宅では、ごみの減量について配慮していると思いますか。（%）

	いつも気を付けている	ときどき気を付けている	あまり気を付けていない	全く気を付けていない
地区'91-4	25.4	54.9	19.7	0.0
'92-2	22.2	60.3	15.9	1.8
'92-3	42.9	38.1	19.1	0.0
'93-2	38.7	37.8	23.3	2.2
'93-4	69.2	22.2	8.6	0.0

表5 あなたは、ゴミの減量のために何か心がけていることがありますか。（複数回答可）（%）

	余分な商品を買わない	生ゴミは水を切った上で捨てる	生ゴミは堆肥にする	燃える物は家庭で焼却する	古新聞・雑誌は廃品回収する	なるべくリサイクルしている	特に心がけていない
地区'91-1	28.7	75.4	10.5	10.5	94.7	28.1	1.8
'91-2	29.9	78.1	1.5	3.0	91.0	35.8	0.0
'92-2	32.8	57.8	17.2	14.1	92.2	40.6	4.7
'92-4	26.2	34.4	62.3	77.1	85.3	39.3	3.3
'93-3	24.7	34.6	71.6	81.5	98.3	63.0	0.0
'93-4	29.6	58.0	46.9	60.5	95.1	51.6	0.0

表6 お宅では、牛乳パックはどのように処理していますか。（%）

	スーパー等で回収	家庭で焼却	可燃ごみに出す	その他
地区'91-1	42.1	1.8	45.6	10.5
'91-2	32.3	1.5	55.4	10.8
'92-2	51.6	—	37.5	10.9
'93-3	58.9	31.7	7.6	3.8
'93-4	68.3	16.5	12.7	2.5

表7 お宅では、買物のときにごみの減量として注意していることがありますか。（複数回答可）（%）

	買物かご・スーパーの袋を持参	使い捨て容器は買わない	再利用できる容器を選ぶ	余分な袋をもらわない	特に気を付けていない	その他
地区'91-3	10.0	13.3	11.7	—	71.7	5.0
'91-4	9.1	15.2	8.1	—	72.7	1.5
'92-2	3.3	16.7	11.7	—	73.3	1.7
'92-3	2.5	10.0	10.0	—	75.0	2.5
'93-2	4.4	15.6	18.7	37.8	47.8	1.1
'93-4	24.4	12.2	42.7	54.9	25.6	1.2

表8 あなたは、ゴミの分別収集・減量・リサイクル等の対策に関して、何かで見たり聞いたりしたことがありますか。（複数回答可）（%）

	新聞	テレビラジオ	市町村の広報紙	回収チラシ	店先	見たこと聞いたことない
地区'91-1	82.0	57.4	50.8	37.7	6.8	0.0
'91-4	79.1	58.2	37.3	28.4	6.0	3.0
'92-2	55.6	77.8	31.8	28.8	11.1	3.2
'92-3	43.9	65.9	51.2	39.0	7.3	2.4
'93-2	75.8	75.8	63.4	38.3	15.4	0.0
'93-3	60.0	62.5	81.3	62.5	15.0	1.3

表9 現在の一般家庭における生活環境は人に対してはより快適になっている反面、地域の環境に対して多くの影響を与えています。環境をより悪化させないための生活様式が求められていますが、その点に関してあなたはどうお考えですか。（複数回答可）（%）

	かなりの便利さは我慢	多少の便利さは我慢すべき	現状を維持	不便はいや	関心なし
地区'91-3	9.5	74.6	15.9	0.0	0.0
'91-4	13.0	65.2	18.8	0.0	2.9
'92-4	12.1	56.9	27.8	1.7	1.7
'93-2	5.8	61.9	30.3	1.1	1.1
'93-3	9.0	57.7	29.5	3.8	0.0